

帰ってきたらいろんな所で
声をかけていただきます。
「ああ地元に戻ってきたな」
とうれしく思いますね。



9/21、本市出身の津軽三味線兄弟ユニット「岡野兄弟」をふるさと大使に委嘱しました。彼らは、国内外で活躍し、市内の小・中学校やイベントなどでも演奏を多数行っています。今回の特集は、岡野兄弟の市に対する熱い思いや、今後の目標などを紹介します。

問 広報戦略課 ☎76-8107 ID 35266 ID 34675

ふるさ

兄
岡野将之



ふるさと大使とは

地域を超えて活躍しているかたを通して尾張旭市の魅力を発信し、にぎわいの創出やイメージアップを図るため、令和5年に設置。岡野兄弟は、TOMOさん(DA PUMP)に続き、2組目の大使となります。

history>>>>



平成13年
名古屋能楽堂



平成24年
全国路上ライブ



平成28年
たのしい夏まつり



令和6年
文化会館コンサート

と大使

弟
岡野
哲也

今、プロとして僕たちが
いろんなことにチャレンジして、
次世代の子たちのためにも、
ルールを敷きたいと思っています。



岡野兄弟の軌跡 —津軽三味線で尾張旭市から全国へ—

小学生の時に両親に連れられて行ったライブで、全身に響き渡る力強い音色に衝撃を受け、始めた津軽三味線。当時、兄・将之さん10歳、弟・哲也さん8歳。それから数々の大会で優秀な成績を残し、平成16年にはスィスで、17年には愛知万博で公演を行います。

平成23年にはプロとして活動を開始。初の自主公演を市文化会館で行い、満員の観客を集めます。その翌年には、路上ライブで観客から得たお金だけで全国を回る旅を実施。そのスタート地は尾張旭駅。今でもこの旅が、原点と語ります。

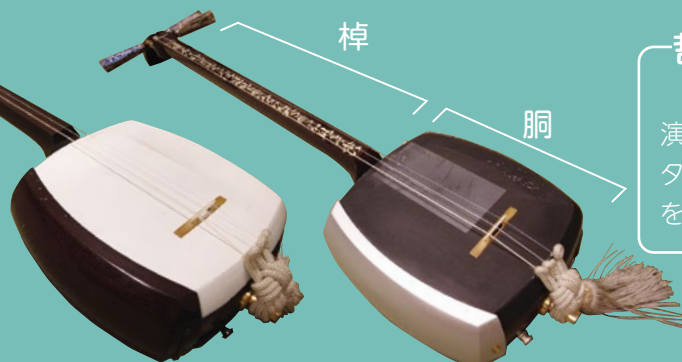
「津軽三味線を広めたい」という思いを胸に、現在は全国・世界各地に活動拠点を広げています。

津軽三味線

津軽三味線は、三味線の中で棹さおが一番太い「太棹」という種類で、大きな音が出るだけでなく、胴どうを叩きながら演奏するため、迫力に満ちた音色が特徴。歴史は約150年と比較的浅く、演奏のスタイルは演者によってさまざま

将之(兄)

絹の糸と本革を使っているため、熱や湿気に弱く、演奏中に音が狂うことも。その場で弦を押さえる位置を変えて音を調整するため、感覚で弾けるように小さい頃から練習してきました。



哲也(弟)

胴を飾る装飾(胴掛け)も演者でさまざま。自分のスタイルに合わせて、色などを変えて楽しんでいます。

兄

岡野兄弟

岡野
将之

Masayuki
Okano



昭和62年10月10日生まれ
旭丘小学校、東中学校卒業

Q. 尾張旭市で思い出の場所は？

A. 最初に大きな公演をした文化会館

Q. ご自身の性格を一言で

A. “だいたい”真面目

Q. 弟さんに一言

A. ずっとお兄ちゃんを大好きでいてね(笑)

—現在の活動についてお伺いします。お二人が力を入れていることを教えてください。

哲也(弟)：津軽三味線のことをもっと若い世代に知ってほしいという思いから、AIを使って曲を作ったり、エレキ三味線を弾いたり、新しいことにチャレンジしています。子どもたちが見て「カッコいい」「津軽三味線をやってみたい」と思ってくれたらうれしいです。

将之(兄)：津軽三味線の教室を始めて、中学生から75歳くらいまでの生徒さんに三味線を教えています。正しく教えられるよう技術も一から見直し、大会もまた出るようになりました。また、民謡*の楽しさを伝えるために民謡グループも始めて、いろんなところで演奏しています。

*生活の中で誕生し、歌い継がれてきた曲

—岡野兄弟としてのほかに、個々の活動も多方面でされているんですね。

将之：活動はバラバラに見えますが、根本の「津軽三味線を広めたい」という思いはずっと変わっていません。兄弟で違うスタイルで活動しているからこそ、いろんな人にアプローチできていると思っています。

哲也：今、プロとして僕たちがいろんなことにチャレンジして、次世代の子たちのためにも、レールを敷きたいと思っています。

—市制35周年の市勢要覧でインタビューさせていただいた時も、「三味線を広めたい」と語られていましたね。

将之：中学生と高校生の時ですね。あの頃はけんかばかりでしたが、お互いに「津軽三味線で食べていきたい」という強い思いが共通であったので、何とかここまで来られたんだと思います。

哲也：両親にはかなり心配をかけましたね(笑)。ここまで大変でしたが、「倒れるなら前に倒れる」という言葉を胸に、失敗しても少しでも前に進めるようにという思いで活動してきました。



—これまでの活動で、印象に残っていることはありますか。

将之：平成23年に初めて文化会館で自主公演した時は準備もどうすれば良いか分からず、本当に周りのかたに助けられました。満員の舞台に立ったときは、鳥肌が立ちましたね。あの公演がスタートラインだったと思っています。

哲也：ニューヨークで20日間、1人で路上ライブをしたことですね。英語も話せなかったのが、最初のフライトから足が震えていたのを覚えています。おかげで心臓に毛が生えました(笑)。これが三味線を世界に広めるための第一歩となり、最高の経験となっています。

岡野兄弟

「津軽三味線を広めたい」

今も昔もその思いは変わりません。

From Owariasahi

帰る場所はここだけです。

外に出て改めて気付いた尾張旭の良さ。

ふるさと尾張旭

—ふるさと尾張旭について伺います。お二人にとって尾張旭の魅力は何ですか。

哲也:小さい頃から森の中で走り回って、緑に囲まれて生活してきました。尾張旭に帰って来ると、ほっとします。そんな自然もありながら、栄などの中心部までアクセスが良いのも魅力です。

将之:僕も外に出てみて、改めて良い環境で育ったんだと感じました。今でも自然をイメージした曲を作る時に思い浮かぶのは、尾張旭の風景ですね。あと、人がとても温かいです。帰ってきたらいろんな所で声をかけていただきます。「ああ地元に戻ってきたな」とうれしく思いますね。

—これからふるさと大使として、どのような活動をしていきたいですか。

将之:まだ僕たちのことを知らないかたも多いと思うので、まずはたくさんイベントなどに出演して、知ってもらいたいです。自分たちがもっと活躍できれば、尾張旭市も一緒に盛り上げていくことができと思っています。ブームを作って、市外にも尾張旭市のことをもっと発信できるように頑張りたいです。

哲也:市内の小・中学校で演奏したり、授業で津軽三味線を教えたり、子どもたちと触れ合える機会をつくっていききたいです。自分たちの強みは、幅広い世代に楽しんでもらえるよう、アレンジしたパフォーマンスができることです。例えば、子どもたちやふるさと大使のTOMOさんとダンスでコラボしたり、民謡を高齢のかたたちと楽しんだり。どんなことでも良いので、声をかけてもらえたらと思います。



—最後に、市民の皆さんにメッセージをお願いします。

将之:地元の応援ほど、力になることはありません。その力を糧に全国に発信していきたいと思っています。引き続き応援よろしくお願いします。

哲也:今は東京を拠点に活動していますが、帰る場所は尾張旭しかないと思っています。帰る場所があるから、いろんなことにチャレンジできています。これから皆さんと一緒に尾張旭市を盛り上げていきたいと思っています。



今後の予定

市民祭(10/13(日))でお披露目式&記念公演を実施

※出演時間などは、同時配布のチラシで

平成元年10月30日生まれ
旭丘小学校、東中学校卒業

Q. 尾張旭市で思い出の場所は?

A. 仲間たちと夢を語り合った維摩池

Q. ご自身の性格を一言で

A. 思い立ったらすぐ行動!

Q. お兄さんに一言

A. これからも楽しくやろう!



弟

岡野
哲也
Tetsuya
Okano

岡野兄弟